

見られることで、東日本では関東・中部型と東北・北陸型とはつきり分れている場合でも近畿でこれ等が混合し或は中間形を示すことがある。ツクバネウツギ属は明かに所謂 Arcto-Tertiary 要素の一つであり、その分化はかなり古い時代に行われたことが推察される。ツクバネウツギの地域的分化も、その分化の程度は余り高くないが、相当長い時代を通じて行われてきたと考えられる。

この研究に当つては多くの方々から御援助を戴いたが、特に生品の入手について尽力して下さつた久内清孝、佐藤正巳、小川由一、結城嘉美、藤井龍之助の諸氏に対して厚く御礼を申し上げる。

〇ウスアカカタバミ (檜山庫三) Kōzō HIYAMA: *Oxalis corniculata* L. f. *atropurpurea* Van Houtte

葉(おおむね莖も)の紫色を呈するカタバミのうち、全体が小形で、葉は赤味ある暗紫色で、花色の黄が濃く、花喉の部分の赤い者をアカカタバミとなし、これに対して、大きさは普通のカタバミと変らないが、葉が暗紫または暗紫褐色をおびて(緑色の部分の多少見られるものも多い)、花色の淡い者をウスアカカタバミと呼んできた。しかし、形の大小、色の濃淡でカタバミを区別することは実際には不可能な場合があつて、上記二品の如きもただ花喉の赤量の有無によつてのみ僅かに識別しうるものが稀でない。また紫葉品には花卉外側の紅味がかつた者がたまたに野外で見られるが、これは草木図説草部巻八カタバミの条下に、花色について、「野州ニ粉紅色ナルアリ」とある者に近いのであろう。

今日アカカタバミと云つている者が草木図説に記されたアカカタバミを指していることは云うまでもない。また牧野富太郎氏が *Oxalis corniculata* var. *atropurpurea* (植雑 11 巻 34 頁, 1897 年) とされたもの、更にまた、*Oxalis corniculata* var. *tropaeoloides* Makino in Bot. Mag. Tokyo 27: 112 (1913) とされたものも、学名は別として、その内容は共に、そこに附記された和名や記文からして、アカカタバミの方であつたか、或はそれにウスアカカタバミをも含めたものであつたであろう(ウスアカカタバミを区別しはじめたのは 1926 年或は 1923 年以後のことである)。尚、このウスアカカタバミの学名としては次のものがよいように思う。

Oxalis corniculata L. forma **atropurpurea** Van Houtte ex Hegi, Ill. Fl. Mitt.-Europ. 4-3: 1656 (1924) sub var. *genuina* Rouy et Foucaud.

O. corniculata f. *tropaeoloides* (Schlachter ex Planch.) Knuth in Engl., Pfl.-reich IV-130-95: 149 (1930); Hara, Enum. Sperm. Jap. 3: 9 (1954).